

事業実績

事業名	「親を支えることが、子どもを支える!!」	事業																						
事業の実施状況	<p>1. 運営協議会の開催</p> <p>とき：平成26年7月31日（木）13：30～16：30 会場：レインボーハウス 和歌山県 環境生活部 青少年・男女共同参画課（副主査）、若者サポートステーションわかやま（訪問支援員）、YMCA学院高等学校 和歌山センター（センター長）、和歌山児童家庭支援センター「きずな」（主任ソーシャルワーカー）、NPO法人トレス（児童指導員）。登校拒否・ひきこもりの子ども・若者を持つ和歌山市親の会（会長、小中学生サークル担当者）、海南市下津町・親の会「ほっとスペース」（担当者）。</p> <p>外部スタッフ2名、事業実施事務局員1名、団体スタッフ（理事長・施設長・事務局長）3名。</p> <p>今年度は、継続した取り組みとなる事業（①運営協議会、③出張相談、④親同士の交流会、⑦学習交流会、⑧事業報告会）に加えて、新たな取り組みとなる②「メール相談」、⑥大学生向け「出張学習交流会」や、小・中学生を対象としていた「居場所」の開設については、青年も対象となったことについて報告した。</p> <p>新たな事業②「メール相談」へのアドバイスを頂いたり、③「出張相談」、⑥「居場所」を広くお知らせするよう助言を頂いたりした。</p> <p>後半は、地域で、不登校やひきこもりの子どもや青年に関わる行政機関や民間団体、サポート高の担当者から、現在の虐待・不登校・ひきこもりの子どもや若者、その家庭への支援の状況が出された。</p> <p>2. メール相談</p> <p>平成26年</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">受信（計13通）</td> <td style="text-align: center;">返信（計9通）</td> </tr> <tr> <td>① 11月5日 母親Aさん</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 11月5日 母親Aさん</td> <td>→ ① 11月6日</td> </tr> </table> <p>平成27年</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>③ 1月18日 本人(中学生)Bさん</td> <td>→ ② 1月20日</td> </tr> <tr> <td>④ 1月27日 母親Cさん</td> <td>→ ③ 1月27日</td> </tr> <tr> <td>⑤ 1月27日 母親Cさん</td> <td>→ ④ 1月29日</td> </tr> <tr> <td>⑥ 1月29日 母親Cさん</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦ 1月29日 母親Cさん</td> <td>→ ⑤ 1月30日</td> </tr> <tr> <td>⑧ 1月31日 母親Cさん</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨ 1月31日 母親Cさん</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩ 1月31日 母親Cさん</td> <td>→ ⑥ 2月5日</td> </tr> </table>		受信（計13通）	返信（計9通）	① 11月5日 母親Aさん		② 11月5日 母親Aさん	→ ① 11月6日	③ 1月18日 本人(中学生)Bさん	→ ② 1月20日	④ 1月27日 母親Cさん	→ ③ 1月27日	⑤ 1月27日 母親Cさん	→ ④ 1月29日	⑥ 1月29日 母親Cさん		⑦ 1月29日 母親Cさん	→ ⑤ 1月30日	⑧ 1月31日 母親Cさん		⑨ 1月31日 母親Cさん		⑩ 1月31日 母親Cさん	→ ⑥ 2月5日
受信（計13通）	返信（計9通）																							
① 11月5日 母親Aさん																								
② 11月5日 母親Aさん	→ ① 11月6日																							
③ 1月18日 本人(中学生)Bさん	→ ② 1月20日																							
④ 1月27日 母親Cさん	→ ③ 1月27日																							
⑤ 1月27日 母親Cさん	→ ④ 1月29日																							
⑥ 1月29日 母親Cさん																								
⑦ 1月29日 母親Cさん	→ ⑤ 1月30日																							
⑧ 1月31日 母親Cさん																								
⑨ 1月31日 母親Cさん																								
⑩ 1月31日 母親Cさん	→ ⑥ 2月5日																							

受信

返信

- | | | |
|---------------|---|---------|
| ⑪ 2月10日 母親Cさん | → | ⑦ 2月10日 |
| ⑫ 3月6日 母親Dさん | → | ⑧ 3月9日 |
| ⑬ 3月9日 母親Dさん | → | ⑨ 3月12日 |
| ⑭ 3月21日 母親Dさん | | |
| ⑮ 3月23日 母親Dさん | → | ⑩ 3月25日 |

3. 出張相談

実施期間：平成26年7月11日～平成27年3月10日

実施場所：対象家庭の自宅、レインボーハウス施設、利用して下さる方の自宅周辺や通勤ルート上の公共施設や民間施設。

実施回数：19回

対象家庭数：10家族

対象家庭の子どもの年齢：小学校2年生～40歳の青年

利用回数は、1回：9人、10回：1家族

この内、母親が8人（延べ19回）、父親が1人（延べ1回）、本人が1人（延べ6回）であり、母親と父親との相談が1回、母親と本人と一緒に対応したのが、1家族（延べ6回）あった。

4. 不登校・ひきこもりの子どもや青年を持つ親同士の交流会

平成26年

- ① 5月9日（金）18：30～22：00／レインボーハウス
参加者：8名、（内、初参加者：2名）
- ② 6月7日（土）9：30～13：20／河北コミュニティセンター
参加者：7名、（内、初参加者：3名）
- ③ 7月11日（金）18：30～22：20／ビッグ愛
参加者：12名
- ④ 8月22日（金）18：30～24：15／レインボーハウス
参加者：8名
- ⑤ 9月7日（日）13：30～20：10／ビッグ愛
参加者：13名、（内、初参加者：2名）
- ⑥ 10月10日（金）18：30～23：30／レインボーハウス
参加者：9名、（内、初参加者：1名）
- ⑦ 10月31日（金）18：30～24：00／レインボーハウス
参加者：7名
- ⑧ 11月29日（土）13：30～17：30／河北コミュニティセンター
参加者：9名、（内、初参加者：2名）
- ⑨ 12月14日（日）13：30～19：30／ビッグ愛
参加者：8名

平成 27 年

- ⑩ 1 月 11 日 (日) 13 : 30～19 : 00 / レインボーハウス
参加者 : 9 名、(内、初参加者 : 3 名)
- ⑪ 1 月 24 日 (土) 18 : 30～22 : 30 / レインボーハウス
参加者 : 7 名
- ⑫ 2 月 14 日 (土) 18 : 30～22 : 30 / ビッグ愛
参加者 : 9 名、(内、初参加者 : 1 名)
- ⑬ 3 月 13 日 (金) 18 : 30～22 : 00 / レインボーハウス
参加者 : 6 名、(内、初参加者 : 1 名)

5. 「子どもや青年の居場所」の開設

平成 26 年

- ① 6 月 11 日 (水) 参加者 1 名
- ② 9 月 3 日 (水) 参加者 2 名
- ③ 9 月 24 日 (水) 参加者 2 名
- ④ 10 月 8 日 (水) 参加者 1 名
- ⑤ 10 月 22 日 (水) 参加者 1 名
- ⑥ 11 月 5 日 (水) 参加者 1 名
- ⑦ 11 月 26 日 (水) 参加者 2 名
- ⑧ 12 月 3 日 (水) 参加者 2 名

平成 27 年

- ⑨ 2 月 4 日 (水) 参加者 1 名
- ⑩ 2 月 25 日 (水) 参加者 3 名
- ⑪ 3 月 18 日 (水) 参加者 2 名

6. 大学生・短期大学生・専門学校生向け「出張学習交流会」の開催

- ① 「子どもを『導かない』関わりを目指して ～不登校・ひきこもりに『伴走』して～」

講 師 : 土井広行 (NPO 法人 レインボーハウス 施設長)

と き : 平成 26 年 10 月 28 日 (火) 17 : 00～19 : 00

会 場 : 和歌山大学 教育学部附属 教育実践総合センター101 室 (授業開発研究室)

参加者 : 8 名

- ② 「親を支えることが子どもを支える ～不登校・ひきこもりに伴走して～」

講 師 : 土井広行 (NPO 法人 レインボーハウス 施設長)

と き : 平成 26 年 12 月 9 日 (火) 15 : 00～16 : 30

会 場 : 和歌山信愛女子短期大学

参加者 : 116 名 (和歌山信愛女子短期大学 保育科 「家庭支援論」授業)

- ③「親を支えることが子どもを支える ～不登校・ひきこもりに伴走して～」
講 師：土井広行（NPO 法人 レインボーハウス 施設長）
と き：平成 27 年 1 月 29 日（木）11：10～12：40
会 場：和歌山 YMCA 国際福祉専門学校
参加者：14 名（和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 介護福祉科 1 年「共生と社会」授業）

7. 一般市民向け「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」の開催

- ①「ありのまま自分らしく ～子どもを育てること～」
講 師：森下順子さん（和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授）
と き：平成 26 年 10 月 19 日（日）13：30～17：00
会 場：ビッグ愛
参加者：16 名
- ②「子どもの安心につながっている 親がしている三つのこと ～私が接してきた親から感じたこと～」
講 師：土井広行（NPO 法人 レインボーハウス 施設長）
と き：平成 27 年 2 月 28 日（土）13：30～17：00
会 場：河北コミュニティセンター
参加者：24 名

8. 「事業報告会」の開催

と き：平成 27 年 3 月 17 日（火）13：30～16：30
会場：レインボーハウス

和歌山県 環境生活部 青少年・男女共同参画課（副主査）、若者サポートステーションわかやま（訪問支援員）、和歌山児童家庭支援センター「きずな」（主任ソーシャルワーカー）、登校拒否・ひきこもりの子ども・若者を持つ和歌山市親の会（会長・小中学生サークル担当者）、海南市下津町・親の会「ほっとスペース」（担当者）。「NPO 法人エルシティオ」（スタッフ）。

外部スタッフ 2 名、事業実施事務局員 1 名、団体スタッフ（理事長・施設長・事務局長）3 名。

前半は事業報告を行い、その後参加者から質問等を受け付けた。メール相談について、返信の仕方や返信までの時間についての質問があった。返信については、複数のスタッフで検討していること、返信が早く行われていたこと、利用者が、メールをすることで気持ちを整理する作業にもなっていることについても話し合われた。

後半は、それぞれの機関や団体の活動状況やそれぞれの現在の状況についての報告、支援機関や団体として、支援者として、抱えている悩みや課題についても話し合われた。

事業成果

事業成果	<p>○実施体制・事業実施過程について</p> <p>⑥「出張学習交流会」は新規事業であったので、和歌山県や大阪府南部の候補とする大学や短期大学、専門学校に協力をお願いしたりする過程に時間を要することもあったが、事業をほぼ無事に完了した。10月以降は、1ヶ月毎にほぼ1回ずつ</p> <p>⑥「出張学習交流会」と⑦「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」の一般市民や大学等の学生たちを対象とした行事を開催することもできた。</p> <p>また、当団体スタッフ以外の外部スタッフの協力により、開催行事の広報のための発送作業や、当日までの準備、当日の受付や片付等も含めた会の進行も、無事に終えることができた。</p> <p>○事業の具体的な成果等について (成果)</p> <p>1. ②「メール相談」③「出張相談」、④「親同士の交流会」、⑦「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」の開催や活動によって、子育てや家族の不登校・ひきこもりで困っている、家から出ることが困難であったり個別の対応を求めておられたりするご家族の方にも、あるいは同じような立場や関心を持つ他者との意見交換や交流を求めご家族や一般市民の方にも、受け皿になることができ、新たな参加者や利用者が増えた。</p> <p>「メール相談」では、大阪府南部にお住まいの方の利用があり、直接本人からの相談もあった。</p> <p>「出張相談」を初めて活用された方の中には、他の相談機関も利用されていたり、他の機関や団体からの紹介で利用されたりする方もおられた。</p> <p>一人で、あるいは家族だけで抱え込んでいる家庭が、少しでも安心できる「場」や「つながり」を持てるきっかけとなり、自分のペースで支援を利用していくことができる。また、すでに他の機関や団体とつながっている人や家庭においても、その家庭を支える場やつながりが増え、一つだけではない、多面的な支えにつながる機会を増やすことができた。</p> <p>また、この年度の中では1回限りの利用や参加の方も多かったが、今回の事業以降の当団体の活動への参加や利用、他の支援機関等について知って頂くきっかけになると考える。</p> <p>2. ②「メール相談」の利用から相談者の保護者と本人がレインボーハウス施設への見学に、③「出張相談」の利用から④「親同士の交流会」⑦「学習交流会」への参加、④「親同士の交流会」の参加から⑦「学習交流会」への参加、⑦「学習交流会」への参加から③「出張相談」利用や④「親同士の交流会」参加につながり、当団体の会員になって下さった方もおられた。今年度以降も当団体の活動への参加や、他の支援機関や団体ともつながっていく事も期待できるケースもあった。</p> <p>2月「学習交流会」の初参加の保護者の中に、後半の「分科会（親同士の交流会）」に残ることを迷われたが結局止められ、後日「メール相談」を利用して下さった方もおられた。</p> <p>3. 年度を通じて1~2回この事業を利用して下さる、以前からの利用者も多数おられた。子どもや青年の成長の節目の時期や、家族が困ったり不安になったりした時につながれる、活用できる事業となった。</p>
------	---

4. 主に和歌山市内ではあるが、色々な地域の会場で事業を行えたことが参加のきっかけとなり、会場周辺に在住の方が④「親同士の交流会」や⑦「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」に参加して下さっている場合もあった。

5. 事業助成のおかげで、毎月和歌山県内のほぼ120ヶ所の公的機関や民間の団体にこの事業のチラシ5~40枚を必要に応じて送ることができ、その機関や団体でチラシを置いて下さったり、直接配布して下さったり、実際に事業の活用を薦めたりして下さった。団体スタッフが手分けして広報してきた結果、現在もこの事業の広報に協力して下さる機関や団体が増えつつある。

6. ⑥「大学生、短期大学生、専門学校生向けの『出張学習交流会』」では、教職員の方のご協力を頂き、教育、保育、介護福祉の分野で、これから人と関わり、対象となる本人の背景にある「家庭」にも関わるかもしれない職業を目指す学生たちに、現場で実際に不登校やひきこもりの仕事に携わっている当団体施設長が話をさせて頂いた。不登校やひきこもりについて知識として知ってもらったり、不登校やひきこもりの子どもや青年たちに興味を持ってもらったりするきっかけとなった。また、講義後のアンケートに、自分自身が不登校やひきこもりを経験したこと、家族や身近なところに不登校やひきこもりの子どもや青年がいること、自らも子育てしていることを書いて下さる学生もいて、手応えを感じることができた。

7. 保護者を含めた一般市民を対象とした⑦「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」においては、子育てに不安を感じ、実際に今悩んでおられる保護者の参加があった。大変な問題が起きて困っているというのではないが、漠然とした不安を抱えながら毎日頑張っている子育てをしている保護者が駆け込むことができ、愚痴や弱音を出し相談ができる「場」を設けることが、地域の子育て支援につながると考える。

8. 地域の学生を含めた一般市民の方に、子ども・青年や親がおかれているしんどい状況や不登校・ひきこもりの本人・家族が抱えるしんどさを知って頂くと共に、当団体の活動についても知って頂いたことで、不登校・ひきこもりに限らず、子ども・青年をその保護者や家族だけが背負い込まれるのではなく、地域で子ども・青年やその親を育ていけるような、安心して試行錯誤しながら子どもも親も共に育ていけるような、「地域を『居場所』にしていく」という当団体の考えを実際に地域の人へ呼び掛け、つながっていける機会を設けることができた。

(課題)

○波及効果について

1. ⑥「大学生、短期大学生、専門学校生向け『出張学習交流会』」に参加した学生が、当団体の有償スタッフに応募し、3月から活動に参加してくれている。

2. この事業を紹介して下さる機関や団体、この事業を通じての活動を知って頂いた機関や団体、またこの事業開催のための広報活動を通じて当団体を知って頂いた機関や団体が増えたことで、当団体は不登校やひきこもりに関わる団体としての社会的な認知を今まで以上に高めることができつつある。

今年度中、事業実施に関わっている団体スタッフがこの事業について他の機関の主催する家族会で、講演やアドバイザーとしての参加を要請されたり、長期化し現在の状態では行き詰っているケースについて、他の機関の職員から連携やアドバイスを求められたりするようになった。

○新たなニーズ・事業展開について

この事業をこれからも継続していき、今困っている人や家庭も、今はそれほど困ってなくてもいつか困った事態が起こった人や家庭にも、必要に応じて、当団体の活動を使ってもらえるようにしていきたい。

	<p>また、地域で不登校やひきこもりについてより一層理解を深め、不登校やひきこもりの子どもや青年が安心して家庭で休息したり試行錯誤したりできる、その家族が安心して生活できるような地域づくりを進めていくためには、今まで以上に地域での活動を展開していくことが必要だと考えている。</p> <p>今年度の事業を実施し、その手応えを確認してきた中で、地域の大学や短期大学、専門学校での「不登校・ひきこもり出張学習交流会」を、もっとたくさんの大学や専門学校で開催していくことや、各大学等の教職員の方々のご協力をお願いして、講義の中でお話しさせて頂くような取り組みを目指していくことも考えている。</p> <p>同時に、和歌山市内など和歌山県内だけでなく、大阪府南部も含めて、各地域の機関や団体にもご協力を頂きながら、「親同士の交流会」や「虐待・不登校・ひきこもり学習交流会」を、和歌山市内の各コミュニティセンター(4ヶ所)や和歌山県内、大阪府南部の各地域で開催していきたいと考えている。</p>
<p>成果物</p>	<p>(成果物)</p> <p>①「1. 運営協議会」、「8. 事業報告会」開催のお知らせ</p> <p>②「2. メール相談」、「3. 出張相談」「4. 親同士の交流会」「5. 子どもや青年の居場所」お知らせチラシ</p> <p>③「6. 出張学習交流会」「7. 学習交流会」チラシとレジュメ</p> <p>(その他参考となる資料)</p> <p>①新聞、地方広報紙の掲載記事</p> <p>②事業写真</p>